

お知らせ

表彰

[2021 年度学会賞受賞者]

- 石濱 泰君 (京都大学大学院薬学研究科・教授)
 研究業績 プロテオーム解析のための基盤技術開発と応用
- 宗林 由樹君 (京都大学化学研究所・教授)
 研究業績 微量金属・同位体の精密分析法の開発と水圏環境化学の革新
- 民谷 栄一君 (大阪大学大学院工学研究科・教授)
 研究業績 生体分子計測のためのナノ・マイクロバイオセンサーの開発

[2021 年度学会功労賞受賞者]

- 肥後 盛秀君 (鹿児島大学・名誉教授)
 研究業績 金属薄膜の分析化学における利用に関する研究と学会への貢献

[2021 年度技術功績賞受賞者]

- 野呂 純二君 (㈱日産アーク)
 研究業績 溶媒抽出の基礎的研究及び工業材料分析への応用
- 松田 直樹君 ((国研)産業技術総合研究所製造技術研究部門・上級主任研究員)
 研究業績 スラブ光導波路分光法による吸収スペクトルその場測定法の開発と固液界面における分子固定割合計測
- 脇川 憲吾君 (福岡県警察科学捜査研究所)
- 白木 亮輔君 (福岡県警察科学捜査研究所)
 研究業績 誘導体化技術を駆使した質量分析による薬毒物分析法の高度化に関する研究

[2021 年度奨励賞受賞者]

- 稲川 有徳君 (宇都宮大学工学部・助教)
 研究業績 相分離により生じたマイクロ構造を利用した分離計測手法の確立と界面物性の解明
- 岩井 貴弘君 ((国研)理化学研究所放射光科学研究センター・特別研究員)
 研究業績 大気圧プラズマを用いた微量試料の高感度無機・有機分析システムの開発
- 坂口 洋平君 (福岡大学薬学部・助教)
 研究業績 高感度化および高精度化を指向した誘導体化 LC の開発と生体試料分析への応用
- 菅沼 こと君 (帝人㈱構造解析センター・主任研究員)
 研究業績 溶液 NMR を用いたポリ乳酸のキャラクタリゼーション
- 福山 真央君 (東北大学多元物質科学研究所・助教)
 研究業績 界面物理化学を利用した微量試料前処理操作の開発

[2021 年度女性 Analyst 賞受賞者]

- 石垣 美歌君 (島根大学戦略的研究推進センター・助教)
 研究業績 ラマン分光法, 近赤外分光法, イメージングを用いた生体分子構造と機能についての *in situ* 分析
- 保倉 明子君 (東京電機大学工学部・教授)
 研究業績 放射光 X 線を用いる植物の元素イメージングと微量元素の動態解析

[2021 年度有功賞受賞者] (敬称略)

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 安川 通 (㈱トクヤマ) | 柴田 隆 (㈱日立ハイテクフィールドディング) |
| 安東 政徳 (㈱島津製作所) | 熊谷 礼子 DOWA テクノリサーチ(株) |
| 加藤 治彦 (㈱島津製作所) | 相沢 孝義 DOWA テクノリサーチ(株) |
| 川上 正 (㈱島津製作所) | 高羽 秀紀 日産化学(株) |
| 牧 徹 (㈱島津製作所) | 山本 智彦 (㈱東レリサーチセンター) |
| 龍見 信之 (㈱島津製作所) | 出原 英人 (㈱東レリサーチセンター) |
| 伊藤 浩征 (㈱住化分析センター) | 杉崎 敬子 味の素(株) |
| 吉岡奈緒美 (㈱住化分析センター) | 西田 満 三菱重工業(株) |
| 本吉 卓 (㈱住化分析センター) | 赤松 玲子 (㈱GSユアサ) |
| 明比 美鈴 (㈱住化分析センター) | 村井 一裕 神岡鉱業(株) |
| 伊藤 哲也 JFE テクノリサーチ(株) | 竹田美和子 (㈱コベルコ科研) |
| 菊地 浩一 JFE テクノリサーチ(株) | 中岡 成晶 旭化成(株) |
| 三部 俊行 JFE テクノリサーチ(株) | 中矢 則子 旭化成(株) |
| 白崎 裕司 JFE テクノリサーチ(株) | 中村 耕三 MHI ソリューションテクノロジーズ(株) |
| 小堀 一博 昭和電工(株) | 長橋 正明 デンカ(株) |
| 宿谷 貴之 昭和電工(株) | 藤田 一隆 デンカ(株) |
| 長尾 虎義 昭和電工(株) | 渡辺千登司 住鋳テクノリサーチ(株) |
| 井波 秀樹 昭和電工セラミックス(株) | 転石 弘二 大口電子(株) |
| 岡崎 晃子 (㈱三井化学分析センター) | 田所 英二 (㈱大同分析リサーチ) |
| 原口みゆき (㈱三井化学分析センター) | 田中 健吉 出光興産(株) |
| 増田由美子 (㈱三井化学分析センター) | 渡辺 美泰 三菱瓦斯化学(株) |
| 渡辺 弘恵 (㈱三井化学分析センター) | 福本 正行 トヨタ自動車(株) |
| 賀嶋 能久 JFE スチール(株) | 榎 朋博 三菱ケミカル(株) |
| 葛西 誠治 日本製鋼所 M&E(株) | 和室 浩代 三菱マテリアルテクノ(株) |
| 堀田 周次 (㈱東ソー分析センター) | 和田 丈晴 (一財)化学物質評価研究機構 |
| 又川 明彦 (㈱日立ハイテクフィールドディング) | |

第 37 回分析化学における不確かさ 研修プログラム

—受講者募集—

主催 日本電気計器検定所、(公社)日本分析化学会
測定結果の信頼性の指標としての不確かさの評価がますます重要となってきました。日本分析化学会においてもエキスパートワークショップやセミナー等によりその普及と教育に努めてきました。

また、日本電気計器検定所 (JEMIC) は、「計量標準等トレーサビリティ導入に関する標準化調査研究委員会」と「計測標準フォーラム人材育成 WG」が共同で開発した不確かさ研修プログラムにより不確かさの研修を実施してきました。

日本電気計器検定所と日本分析化学会は、これらの不確かさ研修を参考に 2006 年、「楽しく・簡単に・解かり易く」をテーマとして、不確かさの計算が分かりやすく理解できるように演習を多く取り入れた「分析化学における不確かさ研修プログラム」(2 日間コース)を開発しました。

この研修では、

- 受講者 1 人 1 人が理解することを最優先に考えたセミナー
- “楽しく簡単に解かり易く” 不確かさの計算方法を解説
- 多くの演習問題を解くことで講義内容を十分理解できる
- 複数の講師が演習問題を通して、各受講者の理解のお手伝いをする、

ことを特徴としています。講師が一方向的に説明や講義を行うのではなく、受講者の理解度を確認しながら対話方式で進めていきます。

期日 12 月 16 日 (木)・17 日 (金)

会場 日本電気計器検定所本社〔東京都港区芝浦 4-15-7、電話：03-3451-1205、交通：JR「田町駅」芝浦口(東口)から徒歩約 13 分又は都営浅草線・都営三田線「三田駅」A4 (JR 田町駅方面) 出口から徒歩約 15 分〕

アクセス https://www.jemic.go.jp/kihon/m_honsha.html

対象者

- 不確かさの計算方法を初歩から学びたい方
- 不確かさの計算方法を社内教育等の参考にしたい方

講義内容

第 1 日 (9.30~16.30)

1. イントロダクション
2. 演習：温度の測定
3. 不確かさとは何か？(不確かさの概要や必要性など)
4. 用語について 1 (JIS K 0211:2013 分析化学用語(基礎部門)の説明)
5. 不確かさ評価の概要(タイプ A とタイプ B の不確かさの違いなど)
6. タイプ A の不確かさ評価(タイプ A の標準不確かさの求め方)
7. 演習：タイプ A の不確かさ評価(タイプ A の標準不確かさを求める演習)
8. 確率分布について 1 (タイプ B の評価に用いられる様々な確率分布について)
9. タイプ B の不確かさ評価(タイプ B としてどのような不確かさの要因があるかと具体的な数値化の説明)
10. 演習：タイプ B の不確かさの要因(タイプ B の要因を考察するグループ演習)
11. 確率分布について 2 (確率分布に応じた除数の説明)

第 2 日 (9.30~16.30)

12. 初日のおさらい
13. 用語について 2 (不確かさの評価/計算に必要な用語の説明)
14. 不確かさの合成と拡張(タイプ A の標準不確かさと

タイプ B として評価した不確かさの合成とその拡張の説明)

15. 演習：不確かさの合成と拡張(合成標準不確かさと拡張不確かさを求める演習)
16. 実際の不確かさ評価の事例紹介(水道水中のナトリウムの測定)
17. 演習：間違い探し
18. 総合演習：拡張不確かさまでの計算
19. 不確かさの利用について(ILAC の示す不確かさを考慮した適合性表明の指針の説明と実際に適合性表明に不確かさを用いている例と技能試験の紹介)
20. まとめ

募集定員 20 名(定員に達し次第、締め切ります)。

申込締切 12 月 9 日(木)

受講料 会員 63,800 円(日本分析化学会会員、JEMIC 計測サークル会員)、会員外 74,800 円

※昼食、テキスト代を含みます。消費税を含みます。

受講証明書の発行 受講者には「分析化学における不確かさ研修プログラム」を受講し、講習を受けたことを受講証明書を主催団体から発行します。

申込方法 日本電気計器検定所のホームページ(https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html)から「分析化学における不確かさ研修プログラム」用の受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力のうえ、E-mail に添付してお申し込みください。なお、電話での申込は受け付けません。

送金方法 受講申込みをいただきますと、日本電気計器検定所から受講票と請求書をお送りしますので、指定口座に受講料をお振込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

個人情報 本セミナーの受講申込みにより取得したお客様の個人情報は、本セミナーに係る連絡に利用するほか、次の目的のために利用することがあります。なお、お客様のお申出により、これらの取扱いを中止させることができます。① JEMIC 計測技術セミナーに関するお知らせ、② 各種校正試験業務、検定業務、基準器検査業務等に関するお知らせ、③ 定期刊行物の発送、購読期限及び会員の集いに関するお知らせ

喫煙に関するお願い 日本電気計器検定所では、健康増進法「受動喫煙の防止」の趣旨に従い、全館禁煙となっておりますので、ご了承ください。

問合先 〒108-0023 東京都港区芝浦 4-15-7 日本電気計器検定所 JEMIC 計測技術セミナー事務局(担当：長谷川)〔電話：03-3451-1205、E-mail: kosyukai-tky@jemic.go.jp〕 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号(公社)日本分析化学会不確かさセミナー係〔電話：03-3490-3351、FAX: 03-3490-3572、E-mail: koms@jsac.or.jp〕

第 364 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会

私達は、日々進化する新たなテクノロジーを採用する時、必ずと言ってよいほど「それ以前のもの」あるいは「似ている他のもの」と比較し、「最善だ、最良だ」と思ったものを選択しています。LC、LC/MS を始めとする分析手法や分析機器もその例外ではありません。今回、MS と MS/MS、HPLC と SFC、UHPLC、旧システムと新システム、オンライン前処理とオフライン前処理等のハードウェア及びメソッド、試薬、カラム、固相抽出カラム、その他消耗品等のマテリアルについて、比較と選択のコツを講演いただきます。性能・コスト・時間等、様

々な切り口による比較・選択のコツを学んでいただければと思います。

期日 10月21日(木) 13:00~17:00

会場 Zoom オンライン例会

講演主題 LC, LC/MS にまつわる比較と選択のコツ

講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13:00~13:05)

(日本分光株) 寺田明孝

(LC分析士三段, LC/MS分析士二段, IC分析士初段)

1. LC, LC/MSにおける試薬選択のコツ(13:05~13:35)
(富士フイルム和光純薬株) 昆 亮輔(LC分析士二段)
2. 分離と速度, 速度論から考えるカラム充填剤選択
(13:35~14:05) (信和化工株) 小林宏資
(LC分析士三段, LC/MS分析士初段)
3. 試験法開発における「最良」の選択(14:05~14:30)
(小林製薬株) 大久保淳史
(LC分析士初段, LC/MS分析士二段)
4. 粒子径及びカラムサイズに対応したLCシステムの選択
のコツ(14:30~15:00) (日本分光株) 飯島里枝
(LC分析士二段, LC/MS分析士初段)

休憩(15:00~15:30)

5. LC/MS/MSを用いた一次代謝物一斉分析メソッドの改良
(15:30~16:00)
(株島津製作所) 伊藤友紀(LC/MS分析士初段)
6. 食品分析における前処理法の選択とLCとSFCの使い
分け(16:00~16:30)
(味の素株) 岡本千聖(LC分析士初段)
7. 総括「LC, LC/MSにまつわる比較と選択のコツ」
(16:30~17:00) (東京理科大学) 中村 洋
(LC分析士五段, LC/MS分析士五段)

参加費 LC研究懇談会個人会員:1,000円, 協賛学会および
後援学会(日本分析化学会, 日本薬学会, 日本化学会, 日本
農芸化学会)会員:3,000円, その他:4,000円, 学生:
1,000円。参加申込締切後の受付はできませんので, ご了承
ください。

情報交換会 講演終了後, 講師を交えて情報交換会を開催しま
す(会費1,000円)。

締切後のご参加はできませんので, 参加希望者は必ず事前
にお申込みください。

参加申込&参加費等納入締切日 10月14日(木)(入金締切
時刻:15時まで)

申込方法 参加希望者は, 下記申込先にアクセスし, 氏名, 勤
務先(電話番号), LC懇談会個人会員・協賛学会会員・その他
の別及び情報交換会参加の有無を明記の上, お申込みくださ
い。お申込みが完了した場合には, 登録されたアドレス宛に
「第364回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付
(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合
は, 世話人までお問い合わせください。参加費の納入が確認
できた方には, 10月15日以降に①例会サイト入場URLと
②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また, 情報
交換会参加費納入者には, ③情報交換会サイト入場URLを
お知らせいたします。

申込先 <https://forms.gle/3hyBqU1tmDFRjVcY6>

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)0802349 口座名
義 シヤ)ニホンペンセキカクカイ
(公益社団法人 日本分析化学会 液体クロマトグラフィー
研究懇談会)

問合せ先 (公社)日本分析化学会 LC研究懇談会〔世話人 E-
mail: terada.akitaka@jasco.co.jp〕

ナノ材料の表面分析講習

主催 (一社)近畿化学協会触媒・表面部会

協賛 (公社)日本分析化学会近畿支部ほか

期日 11月4日(木)・5日(金)

会場 Zoom を利用したオンライン開催

プログラム

第1日(4日9:30~17:30)

開会挨拶 (京大院人環) 吉田寿雄

1. 表面分析概論 (関大環境都市工) 池永直樹

2. 組成分析(AAS, ICP-AES, XRF)

(阪府大院工) 亀川 孝

3. 光電子分光法(XPS, UPS) (阪府大院工) 堀内 悠

4. X線回折(XRD) (阪市大 ReCAP) 東 正信

5. X線吸収微細構造(XAFS)

(京大大学際融合) 朝倉博行

6. 電子スピン共鳴(ESR) (阪府大院工) 松岡雅也

7. 核磁気共鳴(NMR) (阪大院基礎工) 水垣共雄

第2日(5日9:30~16:45)

8. 顕微鏡(TEM・SEM・STM・AFM)

(近畿大理工) 田中淳皓

9. 紫外可視・光ルミネセンス(UV-vis, PL)

(京大院人環) 山本 旭

10. 赤外・ラマンスペクトル(FT-IR, Raman)

(関大環境都市工) 福康二郎

11. 質量分析(MS)

(神戸大院工) 谷屋啓太

12. 昇温スペクトル(TPD, TPR)

(阪大院工) 桑原泰隆

13. 総論・ケーススタディー

(阪市大 ReCAP) 吉田朋子

開会挨拶 (京大院人環) 吉田寿雄

参加費・申込方法 詳細は <https://kinka.or.jp/catalytic/> をご
参照ください。

申込締切 10月14日(木)

申込・問合せ先 〒550-0004 大阪市西区鞆本町1-8-4 近畿
化学協会触媒・表面部会〔電話:06-6441-5531, FAX:
06-6443-6685, E-mail: catal@kinka.or.jp〕

2021年度「ぶんせき講習会」(発展編)

「分析における人工知能(AI)~AIでの課題を
解決にむけて~」

主催 (公社)日本分析化学会近畿支部, 近畿分析技術研究懇
談会

協賛 (公社)化学工学会関西支部, (一社)近畿化学協会,
(公社)日本分析化学会近畿支部, (公社)有機合成化学協
会関西支部, (一社)日本鉄鋼協会関西支部, (公社)
日本金属学会関西支部, 関西分析研究会, (一社)化
学とマイクロ・ナノシステム学会

近年人工知能(AI)を用いたデータ解析に注目が集まっ
ています。日々データを扱う, 例えばスペクトル, 画像, アレイ
などの複雑で大量のデータを扱うことの多い分析現場では,
AIの担う役割が今後大きく広がる可能性があります。本講習
会では, 主に分析化学において, AIに関心があるが, 何をど
のように始めたらよいかかわからないなど, AIの初学者・初
級者を対象に行う機械学習の入門コースとなります。

AIとは何か? 機械学習は何か? という素朴な疑問から,
機械学習を例題を使って「学習」とは何かについて学びます。
その後, Pythonを使った機械学習の簡単な演習を行い, デー
タを用いた実践を行います。この講習後, AIを使った課題解
決に必要な問題設定ができるようになり, 自らの業務領域での

課題を発見し、解決に必要な AI ソリューションにつなげることができるようになります。

期日 11月26日(金) 13.30~17.00

会場 Webexによるオンライン開催 (Cisco Webex)

講習内容 AIに関する基礎的な講習とPythonを用いた機械学習の演習

対象者 AIに興味はあるが、内容についてあまり知らない方で、これからAIを用いて実験・研究してみたいと考えている方。

講習プログラム

1. 【講習】分析とAI

AIとは何か、何ができるかについて説明し、分析化学の現場でAIがどのように活用できるのかについて考えます。AIを簡単にアクセスできるようになると、AIを実装した分析化学は革新的なテクノロジーになることができることを例に挙げていきます。

(13.30~14.15/45分) (阪大) 大城敬人

2. 【講習】機械学習とそれを用いるための計画にむけて

AIを分析化学の現場で実装するためには、目標を定めてそれに沿った計画が必要です。そのために必要な、データを取り扱い方、データを処理するためのアルゴリズムなどを学び、機械学習を用いた分析手法を学びます。

(14.30~15.15/45分) (阪大) 小本祐貴

3. 【演習】PythonによるAIの演習

AIの演習として、Pythonを用いた実践を行います。環境構築から、プログラム入門をして、データの可視化や機械学習を用いたモデル作成、予想などを行います。ディープラーニングなどを用いた学習も行います。

(15.30~17.00/90分) (阪大) 大城敬人/小本祐貴

*お申込みいただいたメールアドレスに、Webex ミーティング招待状を送付します。

*各自でご用意いただくパソコン(OS Windows 10 推奨)に、ウェブミーティングソフトのCisco Webexをダウンロードの上、インストールください。

*当日、Webexの招待メールからミーティングルームにログインしてください。

*また、参加者には事前に電子メールにてPDF資料(Webexのインストール方法、講義テキスト・Python環境構築手引き・コードのダウンロードリンクを含む)案内および受講方法の詳細を記したメールを送付します。

*パソコン(OS Windows 10 推奨)に、Python環境構築を行ってください。やり方については、あらかじめお配りした資料の手引きをもとに行ってください。

*当日のテキストは、各自でPDFを事前にダウンロードし、お使いください。

申込締切 11月21日(日)、定員(90名)。お申込受付は先着順とし、定員になり次第、締め切ります。11月21日(日)以降のキャンセルは不可。

参加費 主催・協賛団体所属会員5,000円、学生2,000円、会員外8,000円

申込方法 参加を希望される方は、近畿支部HP (<http://www.bunkin.org/>) から本講習会のページに入ってください、【参加申込フォーム】にてWebからお申し込みください。

*お申込み後、自動返信メールが届きましたら、開催日までに参加費のお支払いをお願いいたします。参加費は銀行口座(りそな銀行御堂筋支店 普通預金 No. 2340726, 名義:公益社団法人日本分析化学会近畿支部)にお振り込みください。

申込先 〒550-0004 大阪市西区鞠本町1-8-4 大阪科学技術センター6階 (公社)日本分析化学会近畿支部 [電話:06-6441-5531, FAX:06-6443-6685, E-mail:mail@bunkin.org, 近畿支部HP:<http://www.bunkin.org/>]

問合先 大城敬人(大阪大学) [E-mail: toshiro@sanken.osa-

ka-u.ac.jp]

第62回機器分析講習会 第2コース:HPLCとLC/MSの基礎 《初級者、中級者のための実務講座》

主催 (公社)日本分析化学会関東支部

共催 (公社)日本化学会, (公社)日本薬学会, (公社)日本食品衛生学会, (公社)日本農芸化学会, (一社)日本環境化学会

HPLCとLC/MSの基礎について講習します。分離、検出の基礎、移動相調製、前処理などに関する講義、実習を行いません。初級者の方はHPLCとLC/MS操作に必要な基礎知識を全般的に得るための機会としてご利用ください。中級者の方は弱点的な補強または知識の整理にご利用ください。講義、実習ともに講師陣は装置、カラム、試薬の各メーカーの「液体クロマトグラフィー分析士初段」または「LC/MS分析士初段」以上を有するベテラン技術者が中心の、わかりやすい講習です。日々の作業に必要な実践的な知識が身につきます。受講した翌日からの業務、研究が必ず改善されるような内容ですので、是非ご参加ください。最新の情報や動向、トピックスについてもご紹介いたします。

本年は「液体クロマトグラフィー分析士初段」あるいは「LC/MS分析士初段」のいずれかの資格を希望される方(事前にメールにてお伺いいたします)には、本講習会にて無料で支部試験を実施します。「液体クロマトグラフィー分析士」と「LC/MS分析士」は日本分析化学会が認証した資格で、それぞれ液体クロマトグラフィーとLC/MSの理解・技量に応じて段位を認証する制度です。2012年11月には分析士の知識・技量の向上、並びに我が国の分析界の発展に貢献することを目的として「分析士会」も発足し、その社会的・学術的価値はますます高まりつつあり、経歴としても認知されています。是非この認証資格取得を講習会の受講とあわせご検討ください。支部試験の受験希望者には「2021年度液体クロマトグラフィー分析士初段試験(2月16日)」あるいは「2021年度LC/MS分析士初段試験(2月25日)」のいずれかの筆記試験免除(規定の受験料は別途かかります)のための支部試験を受けていただき、合格者には合格証を発行・郵送いたします。

期日 11月29日(月)

開催形態 Web開催(後日アドレスを通知いたします)

プログラム

9.30~9.40	オーガナイザーガイダンス	(東京理科大学) 中村 洋
9.45~10.30	講義1. HPLC・LC/MSの基礎と理論	(東京理科大学) 中村 洋
10.35~11.20	講義2. HPLCとLC/MSにおける分離	(アジレント・テクノロジー(株)) 熊谷浩樹
11.25~12.10	講義3. HPLCとLC/MSにおける検出	(株)島津総合サービス リサーチセンター) 三上博久
12.10~13.00	昼休み	
13.00~13.45	講義4. HPLCとLC/MSにおける前処理	(日本ウォーターズ(株)) 佐々木俊哉
13.50~14.35	講義5. HPLCとLC/MS分析に用いる試薬・溶媒	(富士フィルム和光純薬(株)) 昆 亮輔
14.40~15.25	講義6. LC/MSの基礎	(株)東レリサーチセンター) 竹澤正明
15.25~15.35	休憩	
15.35~16.20	講義7. HPLCとLC/MSにおけるトラブルシューティング	(第一三共(株)) 合田竜弥
16.25~17.25	総合討論	

お知らせ

17.30～18.00 支部試験「液体クロマトグラフィー分析士」
あるいは「LC/MS分析士」
受講料（税込み） 会員（協賛学会会員を含む）25,000円、会
員外 35,000円。参加費の払い戻しはいたしませんので、あ
らかじめご了承ください。
募集人員 40名（定員になりしだい締め切ります）。
参加者の特典 総合討論では、仕事上の問題点につき可能な限
り質問にお答えいたします。時間の制約もありますので質問
事項につきましては、あらかじめ下記お問い合わせメールに
てお寄せくだされば幸いです。
支部試験 受験希望者は、ご自身のPCをご持参ください。受
験者のPCに10問の試験問題を送信しますので、30分以内
に解答を返信してください。
申込方法 下記の関東支部ホームページ記載の申込用メールア
ドレス宛に同ページ記載の申込内容に対応する必要事項を記
入して送信してください。
<https://kanto.jsac.jp/62thno2course/>
申込締切 11月15日（月）
問合せ先 kanto@jsac.or.jp

- (2) フリガナ
- (3) 勤務先（大学名・企業名等）
- (4) 連絡先（住所）
- (5) 郵便番号
- (6) 電話番号
- (7) 連絡先メールアドレス
- (8) 参加内容（一般公演・学生講演・参加のみ）
- (9) 講演タイトル
- (10) 発表者

講演要旨執筆要綱 A4版1枚。余白は上下各20mm、左右各
24mm。図は直接挿入。1枚目の左上隅（8字×4行）は空
白とし、講演題目（MSゴシック、太字、14pt）、一行あけ
て発表者氏名（MS明朝、11pt、所属略称は（ ）内にまと
め、氏名にふりがな、講演者に○印）、1行あけて本文をお
書きください。イオンクロマトグラフィー研究懇談会ホーム
ページ（<http://www.jsac.or.jp/~ic/>）内の「第37回イオン
クロマトグラフィー討論会」でのリンクより、要旨フォー
マットをダウンロードできますので、ご利用ください。

問合せ先 〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1 高知大学理
工学部内 イオンクロマトグラフィー研究懇談会事務局 森
勝伸・森みかる〔電話：088-844-8306、E-mail: ic@jsac.jp〕

2021年第37回イオンクロマトグラフィー討論会 —講演・参加募集—

主催 （公社）日本分析化学会イオンクロマトグラフィー研究
懇談会

本会はイオンクロマトグラフィー（IC）、キャピラリー電気
泳動等、イオンの分離・分析方法全般に関して討論する場とし
て、37回目を迎えることになりました。ICをはじめとするイ
オン分析法は、大学、企業、公設試等、あらゆる機関で利用さ
れておりますが、必ずしも公定法に則ったルーチンワーク的な
作業だけでは十分な測定が達成されません。実際に、水試料の
みならず、固体や気体試料、複雑なマトリックスを有する試料
等を高精度に測定する上で、色々な工夫や知恵を取り入れるこ
とで、満足のいく分析結果が得られるケースが多くあります。
今回は、コロナ感染防止対策のため、オンライン開催となりま
すが、イオン分析における新たな「発見」や「気づき」を共有
するため、基礎、応用、実装化の事例を紹介する講演を広く募
集いたします。

期日 12月3日（金）

会場 オンライン開催（Zoom）

ホームページ <http://www.jsac.or.jp/~ic/>

参加費（要旨含） 一般：2,000円、学生：1,000円

講演形式 依頼講演、企業講演、一般講演、学生講演（全講
演、口頭発表のみ）

スケジュール

申込締切

①講演申込締切：10月15日（金）午後5時

②要旨提出締切：10月29日（金）午後5時

③参加申込締切：10月29日（金）午後5時

※当日参加登録も受け付けますが、事前参加登録にご協力く
ださい

講演・申込方法（Webもしくは電子メール）

①Web：イオンクロマトグラフィー研究懇談会ホームペ
ージ（<http://www.jsac.or.jp/~ic/>）のトップ画面にあります
「第37回イオンクロマトグラフィー討論会」にアクセス
いただき、【講演・参加申込（Forms）】にてお申込くださ
い。

②電子メール（宛先：ic-forum@jsac.jp）：件名を「第37
回イオンクロマトグラフィー討論会」とし、講演申込は以
下(1)～(10)のすべてを、参加のみ場合は(1)～(8)をお知らせ
ください。

(1) 申込者名

——以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

(公社)日本材料学会腐食防食部門委員会 第338回例会

主催 (公社)日本材料学会
期日 9月28日(火)
会場 オンライン開催
ホームページ <http://www.jsms.jp>
連絡先 〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町1-101
(公社)日本材料学会〔電話：075-761-5321, FAX：075-761-5325, E-mail: jimmu@office.jsms.jp〕

プラズマ分光分析研究会第113回講演会

一品質管理等のルーチン分析から最先端の研究開発を支える分析化学の底力—

主催 プラズマ分光分析研究会
期日 10月15日(金)
会場 福山市生涯プラザおよびZoomによるオンライン
ホームページ <https://plasma-dg.jp/>
連絡先 プラズマ分光分析研究会事務局 沖野晃俊〔電話・FAX：045-924-5688, E-mail: office@plasma-dg.jp〕

第57回熱測定討論会

主催 日本熱測定学会
期日 10月27日(水)~29日(金)
会場 オンライン(Webex Meetings)
ホームページ <https://www.netsu.org/2021online/>
連絡先 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-6-7 宮澤ビル601 日本熱測定学会事務局〔電話：03-5821-7120, FAX：03-5821-7439, E-mail: netsu@mbd.nifty.com〕

日本学術会議フォーラム 「ゼロカーボン社会を支える最先端分析技術」

主催 日本学術会議
期日 11月11日(木)
会場 オンライン開催
ホームページ <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0067.html>
連絡先 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当〔電話：03-3403-6295〕

第11回イオン液体討論会

主催 イオン液体研究会
期日 11月18日(木)・19日(金)
会場 Web開催
ホームページ <http://www.ilra.jp/>
連絡先 第11回イオン液体討論会事務局〔E-mail: 11thmeeting@ilra.jp〕

(公社)日本分光学会第5回MAIRS ワークショップ

主催 (公社)日本分光学会
期日 11月19日(金)
会場 京都大学化学研究所
ホームページ <https://www.bunkou.or.jp/>
連絡先 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学化学研究所 長谷川 健〔電話：0774-38-3070, FAX：0774-38-3074, E-mail: htakeshi@scl.kyoto-u.ac.jp〕

第36回分析電子顕微鏡討論会

主催 (公社)日本顕微鏡学会分析電子顕微鏡分科会
期日 12月9日(木)・10日(金)
会場 オンラインによるWeb会議形式
ホームページ <https://bunseki-denken.eng.hokudai.ac.jp/>
連絡先 〒060-8628 北海道札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター マルチスケール機能集積研究室 分析電子顕微鏡討論会事務局 坂口紀史〔電話・FAX：011-706-6788, E-mail: bunseki@eng.hokudai.ac.jp〕

ゼロカーボンエネルギーシステム国際会議 International Symposium on Zero-Carbon Energy Systems, IZES

主催 東京工業大学科学技術創成研究院ゼロカーボンエネルギー研究所 IZES実行委員会
期日 2022年1月11日(火)~13日(木)
会場 東京工業大学大岡山キャンパス
ホームページ <https://www.izes1.org/>
連絡先 東京工業大学科学技術創成研究院ゼロカーボンエネルギー研究所 国際会議 IZES事務局〔E-mail: izes@zc.iir.titech.ac.jp〕

みる・はかる・未来へつなぐ科学機器展 東海サイエンスパーク2022

主催 東海科学機器協会, (一社)愛知県計量連合会, (株)産業経済新聞社
期日 2022年6月2日(木)~4日(土)
会場 名古屋国際会議場
ホームページ <http://www.miruhakaru.jp>
連絡先 〒100-8125 東京都千代田区大手町1-7-2 産経新聞社事業本部 コンベンション事業部〔電話：03-3273-6180, FAX：03-3241-4999, E-mail: miruhakaru@sankei.co.jp〕

「分析化学」特集“分析試薬の可能性を探る”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、分析試薬研究懇談会と共同で「分析試薬の可能性を探る」と題した特集を企画しました。分析試薬は、あらゆる分析化学の方法論にとって、その能力を引き出すための必須の存在です。これまでも、例えばクロマトグラフィーや溶媒抽出における対象物質の検出、分離用試薬を始め、様々な試薬が分析化学を支えてきました。現在では、生命科学から環境分野まで、ありとあらゆる分析化学に関わる対象で、多彩な試薬がこれを支えています。今後、SDGsに代表される新しい社会に必須の研究と技術の発展に伴う新たな分析対象の広がりと共に、分析試薬もまた、従来とは次元が異なる発展を見せようとしています。このような背景に鑑み、本特集号では新規な分析試薬の開発はもとより、分析試薬を用いる新規な分析手法、試料の調製法、得られる情報の処理などに関する工夫や様々な応用例に関する論文の投稿をお待ちしています。詳細は「分析化学」誌ホームページをご参照ください。

特集論文申込締切：2021年9月17日（金）

特集論文原稿締切：2021年10月22日（金）

「分析化学」編集委員会特集“分離分析の進展”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第6号に「編集委員会特集」として特集号を企画しています。2022年度（第71巻）の「編集委員会特集」のテーマは、『高感度解析に寄与する分離分析技術』に決定いたしました。分析技術は種々の分野における基盤技術であり、新たなサイエンスを切り拓く原動力として重要な役割を果たしてきました。近年、質量分析装置の発展は目覚ましく、各分析機器メーカーから販売されている装置を購入すれば高感度かつ精密に、その質量を測定することが可能となっています。また、操作性、利便性、迅速性も格段に向上しており、もはや検出器として質量分析装置を用いることがスタンダードとなりつつあります。質量分析装置と同様に各検出器の感度も飛躍的に上昇していることを鑑みると、質量分析装置を含めた、これら最新の検出器に目的とする分析対象物をいかにして高純度に届けるかが課題として挙げられます。

上記状況に鑑み、本特集では、高感度解析に寄与する分離分析技術と題し、クロマトグラフィーや電気泳動などの分離分析を対象とした研究に着目することとしました。新たなサイエンスを切り拓くための分離技術、新素材での新しい分離様式およびその応用に関する論文の投稿をお待ちしております。また、「若手研究者の初論文特集」への応募資格を満たしている方は、本特集論文と兼ねて投稿していただくこともできますので、若手の研究者の皆様のご投稿もお待ちしております。

詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページを参照ください。

なお、投稿申込締切日は10月1日（金）、原稿締切日は12月3日（金）です。

「分析化学」年間特集“省”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画しており、2022年度は「省」をテーマとすることと致しました。

世界の総人口は現在約78億人となり、人々が健康で豊かに暮らしていくためには、限られた資源を有効に活用することが

不可欠です。また、誰もが高度な科学技術や医療技術の恩恵を受けられるよう工夫することは、持続可能な開発の理念に資する、転じて我が国の近現代史を顧みますと、少ない資源の元での効率の良い技術開発はお家芸と表現しても過言ではなく、分析化学の分野においても、新しい分析方法・技術の開発や改良を通して、複雑化・多様化した現代社会に大きく貢献しているところではあります。

こうした背景から、本特集では「省」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。国内外、産学官を問わず、「省」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の9号及びホームページをご参照ください。

特集論文原稿締切：2021年11月12日（金）（第2期）

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第20回若手研究者の初論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2021年（第70巻）に第20回「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるようにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

日本分析化学会標準物質についてのお知らせ

認証標準物質の認証値については、多数の試験機関が参加した共同実験で得られた値を基に標準物質委員会が認証したものである。PT表示の標準物質はISO/IEC17043に基づいて、技能試験で報告された多数の機関の分析値から求めた中央値を付与値として、標準物質委員会が認めたものである。試料の分析にあたり、本標準物質は併行して分析して得られた分析値を認証値と比較して分析値の妥当性を判断するときなどに用いる。

認証書などさらに詳しい情報は本会ホームページ (<https://www.jsac.jp>) をご覧ください。

◇有害金属成分化学分析用プラスチック認証標準物質（Pb, Cd, Cr, Hg）

JSAC 0601-3, JSAC 0602-3 は好評のうち品切れとなり、頒布を中止いたしました。

◇有害金属成分蛍光 X 線分析用プラスチック認証標準物質（Pb, Cd, Cr）

【JSAC 0611-2～JSAC 0615-2（ディスク状、5枚箱入り）】

RoHS規制対象無機成分蛍光 X 線分析用として開発した。プラスチックの材質はポリエステル樹脂である。Hgは添加せず、次に示す新たな Hg 専用標準物質を開発した。頒布本体価格：ディスク 5 枚入り 1 セット、本会団体会員：100,000 円、それ以外：150,000 円。

◇水銀成分蛍光 X 線分析用プラスチック認証標準物質（Hg 専用）

【JSAC 0621～JSAC 0625（ディスク状、5枚箱入り）】

RoHS規制対象無機成分蛍光 X 線分析用として開発した。Hg含有率を 5 水準で認証したポリエステル樹脂である。頒布本

体価格：ディスク 5 枚入り 1 セット、本会団体会員：70,000 円、それ以外：105,000 円。

◇有害金属成分蛍光 X 線分析用プラスチック標準物質 (Pb, Cd, Cr, Hg, Br)

[JSAC PT0631, JSAC PT0632 (ディスク状, 2 枚箱入り)]

RoHS 規制対象無機成分蛍光 X 線分析用として開発した。プラスチックの材質はポリエステル樹脂である。頒布本体価格：ディスク 2 枚入り 1 セット、本会団体会員：30,000 円、それ以外：45,000 円。

◇ポリ臭化ジフェニルエーテル成分 (PBDEs) 化学分析用プラスチック認証標準物質

[JSAC 0641, JSAC 0642 (粉末状, 25 g 瓶入り 2 本組)]

RoHS 規制の対象となる臭素系難燃剤の PBDEs の 7 成分と全 Br を化学分析用として開発した。プラスチックの材質はポリエステル樹脂である。頒布本体価格：25 g 瓶入り各 1 本, 2 本 1 組 1 セット、本会団体会員：95,000 円、その他：130,000 円。

◇臭素成分蛍光 X 線分析用プラスチック認証標準物質 (Br 専用)

[JSAC 0651~JSAC 0655 (ディスク状, 5 枚箱入り)]

RoHS 規制の対象となるプラスチック中の Br の蛍光 X 線分析用として開発した。プラスチックの材質はポリエステル樹脂である。頒布本体価格：ディスク 5 枚入り 1 セット、本会団体会員：70,000 円、それ以外：91,000 円。

◇塩素の化学分析用プラスチック標準物質 (Cl 専用)

[JSAC PT0661-1~JSAC PT0661-3 (ディスク状)]

RoHS 規制の対象となるプラスチック中の Cl の化学分析用として開発した。プラスチックの材質はポリエステル樹脂である。頒布本体価格：ディスク 1 枚につき 10,000 円、ディスク 2 枚につき 15,000 円、ディスク 3 枚につき 20,000 円。

◇フタル酸エステル化学分析用プラスチック標準物質

[JSAC PT0671 (粒状, 3 g 及び 10 g 瓶入り)]

RoHS 規制対象となったフタル酸エステル分析用として新しく開発した。プラスチックの材質はポリエチレン樹脂である。主要成分は DEHP, BBP, DBP, DIBP, DINP, DIDP 及び DNOP である。頒布本体価格：3g 入り瓶 1 本につき、本会団体会員：50,000 円、それ以外：75,000 円。10g 入り瓶 1 本につき、本会団体会員：80,000 円、それ以外：120,000 円。

◇金属成分分析用土壌認証標準物質 (全量分析および環境省告示 H10 年 21 号対応)

[JSAC 0401, JSAC 0411 (粉末状, 50 g 瓶入り)]

褐色森林土および火山灰土壌に含まれる Cd, Pb, Cr, As, Se, Be, Cu, Zn, Ni, Mn および V の 11 成分の含有率、溶出試験値を認証した標準物質である。頒布本体価格：50 g 瓶入り 1 本につき本会団体会員：50,000 円、それ以外：75,000 円。

◇無機成分分析用土壌認証標準物質 (全含有率および環境省告示 H15 年 19 号対応)

[JSAC 0402-2 (粉末状, 60 g 瓶入り, 新ロット), JSAC 0403 (粉末状, 50 g 瓶入り)]

JSAC 0401 に比べ高い濃度になるように褐色森林土に無機成分を添加調製した 2 種類のものである。土壌中の Cd, Pb, As, 全 Cr, Se, Cu, Zn, Ni, Mn, V, Hg, B, F の 13 成分の全含有率と一部の成分の 19 号対応土壌含有量をそれぞれ認証した。頒布本体価格：60 g 又は 50 g 瓶入り 1 本につき本会団体会員：50,000 円、それ以外：75,000 円。

◇有害金属成分分析用汚染土壌認証標準物質

[JSAC 0461 (低濃度) ~ JSAC 0466 (高濃度) (粉末状, 25 g 瓶入り 6 本組)]

工場跡地の再開発、土壌汚染調査などで土壌中の有害成分の分析のために、JSAC 0402, JSAC 0403 に比べ更に高い濃度になるように褐色森林土に Cd, Pb, As, Cr, Se, Hg の 6 成分の濃度を変えて添加調製した 6 種類のものである。頒布本体価格：25 g 褐色瓶入り 6 種類を 1 セットで、本会団体会員：140,000 円、それ以外：182,000 円。

◇無機成分分析用河川水認証標準物質

[JSAC 0301-4a (500 mL フッ素樹脂製瓶入り)]

新ロットを作製し、頒布を開始している。河川水や類似したマトリックスをもつ水の無機成分分析における分析値の信頼性向上を目的に開発した。主要成分として、Cr, As, Cu, Fe, Mn, Zn, B, Al, Mo, U, K, Na, Mg, Ca の含有率を認証したものである。頒布本体価格：JSAC 0301-4a (500 mL フッ素樹脂製瓶入り 1 本) につき本会団体会員：25,000 円、その他：37,500 円。JSAC 0301-4a を単品で頒布しています。JSAC 0302 については次ロット作製中。

◇農薬成分分析用土壌認証標準物質 (シマジン, ディルドリン全量分析および溶出試験対応)

[JSAC 0441 (シマジン—高濃度), JSAC 0442 (シマジン—低濃度) (粉末状, 60 g 瓶入り)]

農地および農地跡から採取した土壌中の残留農薬として、窒素系のシマジンと塩素系のディルドリンについてはその全量分析値を、また、シマジンについては溶出濃度 (H13 年環境庁告示 16 号) を認証した土壌標準物質である。シマジンは土壌環境基準 (溶出濃度) が定められているが、ディルドリンは現在環境基準の項目にない。頒布本体価格：60 g 瓶入り 1 本につき本会団体会員：25,000 円、それ以外：37,500 円。

◇無機成分分析用石炭灰認証標準物質

[JSAC 0521, JSAC 0522 (粉末状, 50 g 瓶入り, 2 本組)]

国内炭灰および外国炭灰の 2 種類からなり、主要成分として Si, Al, Fe, Na, K, Mg, Ca, P, Sr, Ti, C, S の 12 成分並びに微量成分の As, B, Be, Cd, Co, Cr, Cu, F, Hg, Mn, Ni, Pb, Se, V, Zn の 15 成分および強熱減量 (LOI) の含有率を認証したものである。頒布本体価格：50 g 入り褐色ガラス瓶 2 本 1 組 1 セット、本会団体会員：95,000 円、その他：130,000 円。

◇ダイオキシン類分析用フライアッシュ認証標準物質

[JSAC 0501 (高濃度), JSAC 0502 (低濃度) (粉末状, 50 g 瓶入り)]

都市ゴミ焼却炉の排煙集塵装置で捕集したフライアッシュ中のダイオキシン類成分の含有率を認証したものである。認証成分は、① 2,3,7,8 位が塩素置換された四ないし八塩素化ジベンゾパラジオキシン (PCDDs) およびそのジベンゾフラン (PCDFs) の異性体 17 種、並びに PCDDs, PCDFs の同族体 10 種、② ダイオキシン様 PCBs (DLPCBs) の異性体 12 種、③ ダイオキシン類合計と TEQ 換算値である。頒布本体価格：50 g 瓶入り 1 本につき本会団体会員：100,000 円、それ以外：150,000 円。

◇ダイオキシン類分析用焼却炉ばいじん認証標準物質

[JSAC 0511, JSAC 0512 (粉末状, 60 g 瓶入り)]

木くずを主とするごみ焼却炉から捕集したばいじん中のダイオキシン類すなわち、① PCDDs および PCDFs の異性体並びに同族体、② DLPCBs 異性体、③ ダイオキシン類合計の成分含有率と TEQ 換算値を認証したものである。頒布本体価格：60 g 瓶入り各 1 本につき本会団体会員：50,000 円、それ以外：75,000 円。

◇ダイオキシン類分析用土壌認証標準物質

[JSAC 0421 (低濃度), JSAC 0422 (高濃度) (粉末状, 60 g 瓶入り)]

廃棄物焼却場付近山林の表層及び中層土壌中のダイオキシン類すなわち, ① PCDDs および PCDFs の異性体並びに同族体, ② DLPCBs 異性体および ③ ダイオキシン類合計の成分含有率と TEQ 換算値を認証したものである。頒布本体価格: 60 g 瓶入り 1 本につき本会団体会員: 100,000 円, それ以外: 150,000 円。

◇ダイオキシン類・PCB 同族体分析用河川底質認証標準物質

[JSAC 0431 (低濃度), JSAC 0432 (高濃度) (粉末状, 60 g 瓶入り)]

河川で採取した底質中のダイオキシン類すなわち, ① PCDDs および PCDFs の異性体 17 種並びに同族体 10 種, ② ジオルト体を除く DLPCBs 12 種, ③ ダイオキシン類合計の成分含有率のほか, ④ PCDDs および PCDFs の 1~10 塩素化までの PCB 同族体合計の成分含有率と TEQ 換算値を認証したものである。頒布本体価格: 60 g 瓶入り各 1 本につき本会団体会員: 100,000 円, それ以外: 150,000 円。

◇ダイオキシン類・PCB 同族体分析用海域底質認証標準物質

[JSAC 0451 (低濃度), JSAC 0452 (高濃度) (粉末状, 60 g 瓶入り)]

国内海域で採取した底質中のダイオキシン類すなわち, ① PCDDs および PCDFs の異性体 17 種並びに同族体 10 種, ② ジオルト体を除く DLPCBs 12 種, ③ ダイオキシン類合計の含有率のほか, ④ PCDDs および PCDFs の 1~10 塩素化までの PCB 同族体合計の成分含有率と TEQ 換算値を認証したものである。頒布本体価格: 60 g 瓶入り各 1 本につき本会団体会員: 100,000 円, それ以外: 150,000 円。

◇ダイオキシン類分析用模擬排水認証標準物質

[JSAC 0321-3 (3 L 瓶入り, 2 本組)]

極めて微細に粉碎したフライアッシュなどを水中に分散させて調製した模擬排水中のダイオキシン類すなわち, ① PCDDs および PCDFs の異性体並びに同族体, ② DLPCBs 異性体および ③ ダイオキシン類合計の成分含有率と TEQ 換算値を認証したものである。頒布本体価格: 3 L 入り褐色ガラス瓶 2 本 1 組 1 セットで, 本会団体会員: 50,000 円, それ以外: 75,000 円。

◇微量酸素分析用鉄鋼認証標準物質

[JSAC 0111 (円柱状, 1 個瓶入り)]

表面の付着酸素を除く微量酸素の含有率を認証した鉄鋼(軸受け鋼)標準物質であり, 認証値の決定は表面酸素の影響を受けない基準分析法としての荷電粒子放射化分析法による。頒布本体価格: 瓶入り 1 個で本会団体会員: 15,000 円, それ以外: 22,500 円。

◇微量金属成分分析用アルミニウム認証標準物質

[JSAC 0121-B (角状, 1 個瓶入り), JSAC 0121-C (チップ状, 50 g 袋入り)]

高純度アルミニウムに微量の元素を添加して調製した標準物質で, Si, Fe, Cu, Mn, Mg, Zn, Ti, Cr, Zr および B の 10 元素の含有率を認証している。頒布本体価格: 各形状とも本会団体会員: 12,000 円, それ以外: 18,000 円。

◇金属成分蛍光 X 線分析用鉛フリーはんだ認証標準物質

[JSAC 0131~JSAC 0134 (ディスク状, 4 枚箱入り)]

RoHS 規制対応および電気・電子部品などのはんだ付け工程の品質管理を目的に開発した。材質は Sn-Ag-Cu 系のはんだで, Pb, Cd, Ag, Cu の含有率を変えた 4 水準 1 組となってい

る。頒布本体価格: ディスク 4 枚入り 1 セット, 本会団体会員: 150,000 円, その他: 195,000 円。

◇LSI 用二酸化ケイ素認証標準物質

[JAC 0011~JAC 0013 (粉末状, 75 g 瓶入り 3 本組)]

高純度非晶質二酸化ケイ素粒子に U および Th 溶液を含浸させ, 乾燥, 焼成して調製したもので, LSI 関連材料中に微量に含まれる U および Th 成分の分析に用いるものである。頒布本体価格: 1 セットで本会団体会員: 150,000 円, それ以外: 200,000 円。

◇LSI 用高純度アルミニウム認証標準物質

[JAC 0021~JAC 0023 (片状, ピン状, 角状ごとの 3 組)]

高純度アルミニウムを融解して調製したもので, LSI 関連材料中に微量に含まれる U および Th 成分の分析に用いる標準物質で, U および Th の含有率は 3 水準である。頒布本体価格: 1 セットで本会団体会員: 150,000 円, それ以外: 200,000 円。

◇微量元素分析用 高純度マグネシウム認証標準物質

[JAC 0141~JAC 0143 (ディスク状, 3 種)]

JIS H 2150 に準拠したインゴットからビレットを作製し, 押し出し加工により丸棒にし, ディスク状に切り出した標準物質で 3~6 元素を認証した。頒布本体価格: 1 ディスクで本会団体会員: 40,000 円, それ以外: 60,000 円。

◇汎用マグネシウム合金認証標準物質

[JAC 0151~JAC 0154 (ディスク状, 4 種)]

JIS H 4203 に準拠したマグネシウム合金を連続鋳造で作製したビレットを押し出し加工により丸棒にし, ディスク状に切り出した標準物質で Al, Mn, Zn を主成分に他 3~7 元素を認証した。頒布本体価格: 1 ディスクで本会団体会員: 40,000 円, それ以外: 60,000 円。

*上記高純度マグネシウム認証標準物質 3 種を合わせた 7 種を 1 セット購入の場合, 10% 引きです。

◇栄養成分等分析用粉乳標準物質

JSAC PT0711-4 は好評のうち品切れとなり, 頒布を中止いたしました。

◇栄養成分等分析用魚肉ソーセージ標準物質

JSAC PT0721-4 は好評のうち品切れとなり, 頒布を中止いたしました。

申込方法 希望標準物質名(製品番号も明記), 申込者氏名, 送付先(郵便番号, 住所, 所属, 電話番号), 団体会員・それ以外の別(団体会員の場合は会員 ID), 数量・料金, 請求書宛名を明記のうえ, 下記にお申し込みください。なお, 本体価格は送料込み, 消費税別です。

申込及び問合せ先 〒105-0012 東京都港区芝大門 2-12-7 (RBM 芝パークビル) 西進商事(株)東京支店 [電話: 03-3459-7491, FAX: 03-3459-7499, E-mail: info@seishinsyoji.co.jp, URL: http://www.seishinsyoji.co.jp/]

技術的な問合せ先 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号 (公社)日本分析化学会 標準物質委員会 事務局 [電話: 03-3490-3352, FAX: 03-3490-3572, E-mail: crmpt@ml.jsac.or.jp, URL: https://www.jsac.jp/]

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景を鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail: bunseki@jsac.or.jp]

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先は shomu@jsac.or.jp です。原稿の長さには制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月 25 日（例：1 月号掲載→11 月 25 日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。

- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。ただか、本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルを shomu@jsac.or.jp にお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

「分析化学産業技術論文賞」のご案内

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2019 年に「分析化学産業技術論文賞」を設けました。独創的であり、実用的な分析技術や測定機器、並びに科学技術や産業の発展に貢献すると認められる論文を選定し、表彰することといたしました。企業技術を周知する場としても活用して頂けるかと思っておりますので、奮ってご投稿ください。また、国内における科学技術の国際競争力強化のため産学連携が推進されています。その研究成果を企業の視点からご投稿ください。若手研究者のご投稿もお待ちしております。詳細は「分析化学」誌ホームページをご参照ください。

表彰対象論文：1) 独創的であり、実用的な分析技術や機器、並びに科学技術や産業の発展に貢献すると認められた論文。2) 企業あるいは公設試験研究機関に所属する者が筆頭著者あるいは連絡代表者である論文。